



水道の使用中に断水した場合には、ただちに水栓を締めてください。もし締め忘れたまま外出などしますと、通水が始まると同時に水が出し放しとなり、あなたの部屋が水びたしになるだけでなく、階下にも漏水してたいへんな被害を及ぼします。

▶水栓(蛇口)の使い方、パッキンの取替え方

水をとめるときには水栓を静かに締めてください。強すぎますと故障の原因になります。パッキンの取り替えは簡単にできますので、自分でされることをおすすめします(パッキンは市販されています)。

取り替えは次の順序です。

- ① 水道の元栓を締めて水をとめる。
- ② スパナーなどで水栓のキャップナットを左へ回してゆるめる。
- ③ 水栓のハンドルを左へいっぱい回して、キャップナットとともに取りはずす。
- ④ 中のコマを取り出す。

- ⑤ コマナットを左に回してゆるめる。

- ⑥ 新しいパッキンを取り替える。

これで一応パッキンの取り替えは終わりましたので、いまの逆の方法で組み立てて完了です。パッキンの予備を2、3個用意しておくと便利です。

▶冬季の給水管および器具の凍結防止

冬期には、水道管・水道メーターなどが凍結して破損することがあります。これを防止するため、夜おやすみ前に浴室の水栓などで、浴槽内に1分間あたり牛乳瓶1本(200cc)程度の水を出し放しにしておいてください。

屋外型給湯器を使用の住宅は冬期に給湯用電源を切らないでください。

給湯器には、凍結予防ヒーターが装備されており、特に気温の下がる夜間や早朝に給湯器内部の配管内の水が凍結して破裂し水漏れを起こすことがあります。

〈凍結して水が出ないときは〉

水が出ないからといってあわてて熱湯をかけると破裂の原因になりますのでやめてください。ぬるま湯で溶かすか、すぐに必要でないところは、気温の上昇により自然に溶けるのを待つのが安全な方法です。水が出だしたら、湯沸器などは異状のないことを確認してから使用してください。

11 緊急通報システム

シルバー・ハウジングや阪神・淡路大震災以後に建設された高齢者・身障者向け住宅には、住戸内の緊急事態を外部に知らせることができる緊急通報システムが整備されています。

※ 27ページイメージ図参照(参考)。

〈緊急通報システムの使い方〉

- ア) いざという時には、迷わず「押しボタン」か「握りボタン」を押してください。
- イ) すぐに警報音が鳴り、シルバー・ハウジングでは緊急事態がLSA室に通報されます。また、LSAが不在の時や夜間には、セキュリティ会社や特別養護老人ホーム(市町により通報先が異なります。)等に通報されます。高齢者向け・障害者向け(車イス用)住宅では、緊急時に固定電話回線を通じて異常事態が登録先に通報されます(電話を引いていないと通報されません。)。
- ウ) 間違えて押してしまったら、30秒以内に「復旧ボタン」を押して取り消します。
- エ) 水量センサーを設置している住戸の場合、次のような水道の使い方をすると、緊急事態として通報されます。
 - ① 12時間水を使わない。
 - ② 2時間程度水が出ている。
 - ③ 漏水
- オ) 人感センサーを設置している住戸の場合、12時間センサーに反応がないと、緊急事態として通報されます。
- カ) 外出するときは必ず外から鍵をかけて下さい。(かけないとセンサーが働き、12時間すると通報されます。)また、室内に誰かが残っているときは「在室ボタン」を押してから鍵をかけてください。(センサーが引き続き働きます。)
- キ) 緊急時(廊下で警報が鳴っているとき)には、緊急解錠キーで隣近所での助け合いをお願いします。緊急解錠キーは、緊急時だけ玄関の鍵を外から解錠できる共通キーで、団地の入居者やLSAに渡しています。

ク) 自動通報機には、停電時対応のために電池を補充ください。また、自動通報機のスイッチは絶対に切らないように願います。スイッチを切ると、LSA室や緊急通報登録先へ通信できなくなります。

ケ) IP電話(インターネット回線を利用した電話)に変更されると、緊急通報登録先へ通信できなくなりますので、ご注意ください。

※ LSA(ライフサポートアドバイザー=生活援助員)シルバー・ハウジング入居者に対して、緊急時の対応、安否の確認、生活相談等を行います。

※ 緊急通報システム機器の更新状況により仕様が異なる場合があります。

緊急通報システムのイメージ図

＜シルバー・ハウジング、高齢者向け・障害者向け（車いす用）住宅用＞

